

「ちょっとした心遣い 横断歩道の小走り」

240416

朝、役場手前の菱池の交差点に立っていて、最近大きな変化を感じています。それは、生徒のみなさんの横断歩道の渡り方です。

幸中生の登校時間帯の県道483号線(岡崎幸田線)は、通勤通学の方で交通量も多く、幸田駅方面に向かう道は毎日渋滞しています。そんな状況の中を幸中生は南から北へ、学校へ向かって徒歩や自転車で登校しています。当然のことながら、横断歩道を渡る際には、役場に向かうために左折や右折する車が、幸中生が渡り切るのを停まって待つこととなります。誰もが朝の忙しい時間であり、少しでも早く職場に着きたいし、駅に送りたい、子どもを保育園に送り届けたいと思っている時です。そんな時に横断歩道を渡る側の渡り方、心掛けひとつで大きな違いが生じます。

以前から、横断歩道を渡る際に、停まっている車に気づいて、足早に渡る人たちはいました。それが、最近は停まっている車がいることに気づくと、多くの生徒のみなさんが、小走りで横断歩道を渡っていきます。中には、少し離れた場所からダッシュして渡る人もいました。私が、「こうやって小走りで渡ってくると、運転手さんとしては、とってもうれしいんだよねえ。」と声を掛けると、その子たちは嬉しそうににこっと笑顔で歩いていきました。その後、私が停まってくれた運転手さんに向かってお辞儀をすると、笑顔をにこっと返してくださる方がたくさんいました。朝の忙しくて、慌ただしい時間帯だけれども、小走りというちょっとした心遣いで笑顔になれる。幸中生の地域に発する心遣いの一つの形であり、そんな心遣いを大事にしたいなと感じました。そして、そんな心遣いをみせてくれた幸中生をとっても誇らしく思っています。

命の輝きを感じさせてくれる一場面です。

